沼津朝日　2015年（平成27年）8月2日（日曜日）　第18720号　（日刊）

新中間処理施設の問題点考える

廃プラ焼却処理による影響は

特殊な立地や気象

風向きや狩野川の存在も

香貫山東側山裾にある市の清掃センター、屋内温水プール、中継・中間処理施設、旧し尿処理場跡地一帯への新中間処理施設建設計画が着々と進められている。昨年六月以来、六回にわたって開かれた市新中間処理施設整備基本計画検討委員会（委員長・横田勇県立大名誉教授ほか十四委員）での検討を終え、六月十六日には横田委員長らが同基本計画に対する提言書を栗原裕康市長に提出している。

提言書は、一、ゴミ処理施設、二、公害防止、三、余熱利用、四、事業手法、五、防災計画、六、環境拠点について記述。

一について、ゴミ分別方式は現状を維持し、さらなるゴミの発生抑制や減量に向けた取り組みを進め、施設整備については周辺住民へ十分に配慮すること。

二について、施設の運転にあたっては市民の安心・安全を最優先に考え、基準値を順守することや、その監視体制を強化し、施設建設に際しては騒音や振動対策など周辺環境に悪影響を及ぼさないようにすること。

三について、熱エネルギーの効率的かつ経済的な活用を図り、エネルギー回収率は一五%以上を基本とするが、今後も交付金等の動向を見据えながら、回収率一九%以上を視野に入れた、より効率的な施設整備について検討すること。

四について、従来の公設・公営に比べて安全的・定量的に優位なPFI的手法で事業化することを基本とし、維持管理・運営は全てを民間任せにするのではなく、市民対応など市も責任を持つような体制を検討すること。

五について、大規模災害の発生に備え、施設の強靭化はもとより、食料品や生活必需品を備蓄するなど防災拠点としての在り方を検討すること。

六について、市民に対して多目的スペースを開放するなど広く開かれた施設としての在り方を検討するとともに、地域住民との交流促進を図るなど、地域との信頼関係を築くよう努力すること。以上を要望している。

専門知識を持たない市民には分かりにくいゴミ焼却炉の建設問題だけに、六回開かれた同委員会で意見や質問をする委員は限られていた。

そこで、市が公表している同施設建設における環境アセスメントや基本計画などに基づき、長い間、各地のゴミ焼却炉問題に取り組んできた研究者の西岡昭夫氏に話を聴いた。

まず西岡氏が指摘するのは、これまで分別してきたプラスチック類を燃やすゴミと一緒に焼却すること。焼却炉で燃やすゴミ量は、ゴミの種類によって発熱量が違うためプラスチック類と生ゴミなどの混合率が問題だという。

また、プラスチック類を燃やさないできたのはダイオキシンや有毒ガスの発生を抑えるためだったが、新施設では、これらの有毒物質を除去しなければならず、今までの公害処理とは全く違うことになる点を指摘。

市は現在、プラスチック類の処理については三重県の民間業者に委託し、年間約一億円を支出している。これらを燃やすことで委託料はなくなるが、有毒物質などを除去するためには新たなシステムが必要となる。

また、発熱量の大きなプラスチック類を燃やすことで焼却炉内が高温となり、炉内の耐火煉瓦の劣化スピードが速まり、改修費がかさむ、と同時に日量二一〇トンと計画されているゴミ焼却量も抑えなければならなくなる可能性も指摘。

現施設では、公道から最も離れた山側に、収集車が集めたゴミをピットに投入するプラットホームがあるが、新施設の計画図では公道側にあり、プラットホームから発生する騒音、振動、臭気が住宅地に接近することになる。

建設計画地は標高一九七㍍の香貫山山裾。環境アセスメント調査についても、他施設とは立地条件が全く違うため、参考にならないことを忘れてはならないと念を押す。

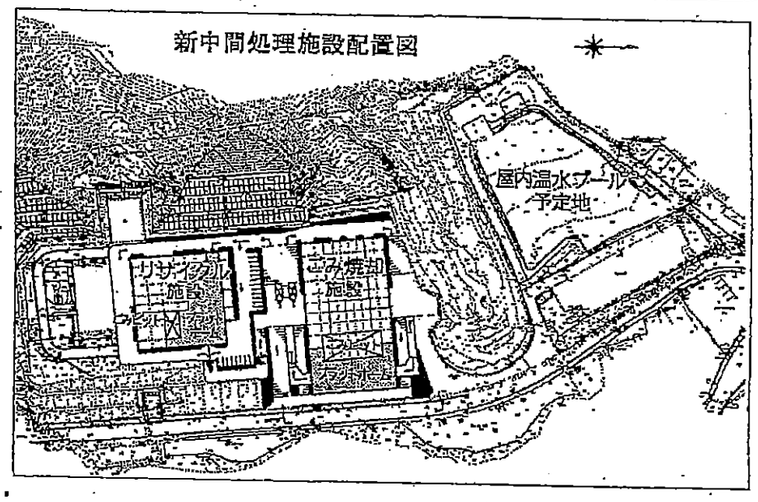
西風が吹いている時、香貫山を越えた風は下へ向かい、排煙は焼却場から極めて近い外原地区に高い濃度のまま下りてくる。また、狩野川が近くを流れているため上昇気流が起きにくく排煙は拡散希釈されない。

西岡氏は「報告書は沼津の施設が特殊な立地条件にあることを全く考慮せず、これまで実施した他施設でのデータをそのまま沼津に当てはめているように思える。気象についても旧三島測候所のデータを使っているが、平地にある測候所と香貫山を背にした沼津の焼却場とは全く違うし、直線距離で約四・七㌔離れていて参考にはならない」と話す。

さらに、沼津市は一九七四年、清水町外原区住民との間で「将来、（ゴミ焼却施設は現在地には）一切増設、新設をしない」と覚書を交わしたが、その約束を反故にしたことへの反省が一切見えない。

例えば、新施設では、現在は燃やすことのないプラスチック類を燃やし、さらに排出有害ガスを拡散希釈させるための煙突を現行の八五㍍から五九㍍へ低くする計画だ。

県東部地域で、焼却施設が人口過密な場所に建っているのは沼津市以外にない。富士、三島、裾野、伊豆の国、伊豆市では人が少ない山の中にあり、沼津でも山中の候補地はある。



今回の計画に対して沼津市民側からの声は少ないが、夜になると陸風が吹き、排煙が香貫山を越えて香貫地区や中心市街地に降り注ぐ状況もある。

市当局は煙突を五九㍍とする理由について、「航空法に抵触しないようにするため」「高いと圧迫感がある」「焼却炉の性能が上がったので低くても問題はない」「県内の施設も五九㍍が多い」ことなどを挙げている。

しかし、ゴミ焼却問題に敏感な東京都内二十施設の煙突高は平均一三四・五五㍍。最高は墨田区の二一〇㍍で、一五〇㍍を超えるのは九施設。

また、焼却炉からの排煙が子ども達の健康に影響を与えることをうかがわせるデータもある。

稼動中の二〇〇〇年と停止中の〇四年を比較した横浜市栄区の本郷小学校の児童の喘息罹患率は約一六%から約五%に、桂台小学校では約二〇%から約五%に減少している。

一方、清水町内の五小中学校における二十四年度の喘息罹患率は、清水小六・五%、清水西小八・六%、清水南小一〇・五%（小学校の県平均は三・〇%）、清水中六・〇%、清水南中五・〇%（中学校の県平均は一・五%）。

横田委員長は検討委最終日のまとめで、「地域の皆さんに、この新中間処理施設が出来て良かった、と思われるようになるといいですね」とまとめたが、清水町側住民には納得できない向きが少なくない。

同委員会を数多く傍聴した梅沢弘議員（無所属）は「沼津市は予算がないからか、建設に当たっては、初めからPFI方式ありきが見え見え」だと話す。

PFI方式　民間資金を利用して民間に病院やゴミ焼却場、住宅など公共施設の建設、維持管理、運営に導入されることが多い手法。

沼津朝日
沼津朝日新聞社
〒410-0888 沼津市末広町34
TEL 962-4840㈹ FAX 962-4590
URL numaasa.com
1カ月 730円・1部 40円

夏・味・涼・風
郷土名産 "寿太郎みかん" を たっぷり使ったゼリーです！
寿太郎蜜柑
御菓子処 雅苑 心

甲第14号証